

生涯にわたって  
社会のいたるところで学ぶための方法

## だれでも…の視点～障害者青年学級の過去と現在から～

安西 春樹

「だれでも」の取りこぼしのない社会

教育基本法第3条に記載される生涯学習の理念、また第4条の教育の機会均等については社会教育に関わる読者のみなさんには体に染みついているほど何度となく目にされていること

思われます。行政組織の中で関わる方にとっては、さらに社会教育法に示される役割を職務として日々実践されていること

思います。

言うまでもなく、社会や地域にはさまざま境遇の方がいて、多様な生活を送っています。私たちは日々、その多様な方々に寄り添い、個々の学習活動を支援する現場に立っています。

では、私たちの支援する「生涯学習」「社会教育」の機会や環境が立ち上がり、卒業生やその保護者を交えた意見交換の機会や特殊学級担任会、手をつなぐ親進みました。

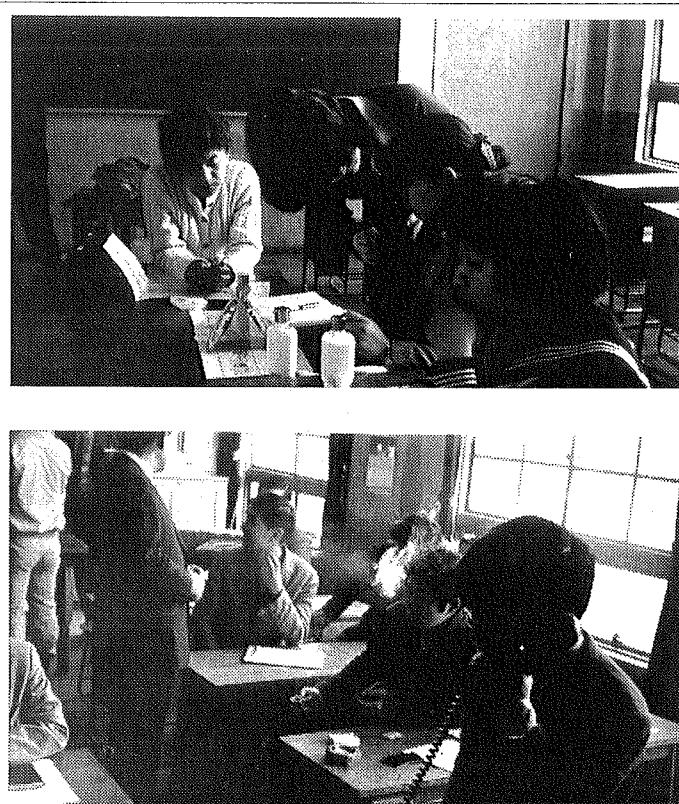
青年学級開設のための研究会が立ち上がり、卒業生やその保護者を交えた意見交換の機会や特

そこで、当時の学級担任はもちろん、学校、教育委員会、手をつなぐ親の会、保護者の皆さんから学校卒業後の具体的な活動や組織としての青年学級の構想が生まれ、開設までの準備が進みました。

の会からの意見・提案をもらいながら準備は進みます。そのもとなつたのは、卒業生たちの同窓会（えのき会・日本橋中学校の校章「えのき」に由来）だつたと記録されています。まわりの援助はもちろん必要ではありますましたが、卒業生が自分たちの学びの場は自分で創つていくという生涯学習の理念がそこにはあつたようです。

- ・開設当時の学級の目標に
- ・社会人として必要な教養を身につける
- ・日常生活に関する初步的な知識や基本的な技能を身につける
- ・余暇を利用して、生活を豊かにする
- ・友達をつくり、仲間と集団生活ができるようになる

- ・開設当時の学級の目標に
- ・社会人として必要な教養を身につける
- ・日常生活に関する初步的な知識や基本的な技能を身につける
- ・余暇を利用して、生活を豊かにする
- ・友達をつくり、仲間と集団生活ができるようになる



学級開設当初の活動の様子

提案・あらゆる人」「だれでも」に目を向け、「生涯学習」「社会教育」の機会をサポートする学習支援者になりませんか？

境が本当に「だれでも」に届いているでしょうか。行き届いていない部分に気づいた時、学習支援者として私たちに何ができるかを考える視点を持つ必要があります。

近年は、「ダイバーシティ」、「インクルーシブな社会」という言葉も日常的に耳にするようになりました。実際の学習活動や事業の現場で、少しでも理想の社会に近づく視点を持ちたいものです。

現在、中央区で実施している「中央区かえで学級」も同様に様々な変遷を経て、令和2年度に設立50周年を迎えました。1957年（昭和32年）に中央区立浜町中学校に開設された特殊学級。その卒業生たちが社会に巣立ち、職場や家庭、地域にはさまざま境遇の方がいて、多様な生活を送っています。私たちは日々、その多様な方々に寄り添い、個々の学習活動を支援する現場に立っています。

では、私たちの支援する「生涯学習」「社会教育」の機会や環境が立ち上がり、卒業生やその保護者を交えた意見交換の機会や特

障害を持つ方のための学びの場、その一例としての「障害者青年学級」

「だれでも」の視点のひとつとして、本稿では障害を持つ方の生涯学習について、「障害者青年学級」事業を一例として中央区の学級を取り上げ、その歴史と現在を振り返つてみたいと思

います。

障害者青年学級は、主に知的障害を持つ方の学習支援を目的として、主に各自治体の社会教

会えで学級より先だって開設された東京都青島養護学校の青年学級や近隣では早くに開設された墨田区の「すみだ教室」、すでに組織されていた青年学級連絡協議会への見学や参加などを経て、遅ればせながら1970年（昭和45年）5月17日に「かえで青年学級」が誕生しました。

主な会場は、区立日本橋中学校から始まり、第二中学校時代を経て、銀座中学校に移り現在に至っています。実施会場の確保という点でも近年は難しさを増している自治体もありますが、中央区の場合は現在も特別支援学級を設置している銀座中学校の全面的な支援と理解を得て使用させていただいています。

開設の翌年1971年（昭和46年）には中央区立柏学園（千葉県柏市）を会場に墨田区・東区・中央区の障害者青年学級と中央区小中学校特殊学級の合同運動会が開催され、のちに千代田区の学級も参加し、現在まで四区青年学級連合レクリエーション大会として各区主管の持ち回りで続いている。

一昨年度、昨年度と新型コロナウイルス感染拡大のため延期となつた第50回の大会も今年度12月に中央区の当番で開催する

予定です。

他にも江東区とのソフトボーラー対抗戦やキックベースボール、交流試合など、他区との交流機会を多く持つてきました。

現在のかえで学級では、学級生の高齢化や身体的な理由で誰もが参加しやすいボッチャなどの競技を行う機会が多くなりましたが、キックベースボールを主に実施していた時期もあり、またそれ以前はソフトボールが運動活動の主流となっていた時

開設10周年記念の年には  
“KAEDe”のマークが胸に入つ  
たお揃いのユニフォームを作り、  
今も大切に使っている学級生も  
います。

誘いを受けて、千代田フィルハモニーの鑑賞会にも参加してきました。このように他区の学級と交流できる機会は学級生にとっても、スタッフ・担当職員にとっても良い刺激となっていました。



## 現在の活動の様

が運営に携わってきました。学校の先生方を中心にスタートしたスタッフも、現在はさまざまな職種の方が講師・助手として携わっています。

他地域の多くの学級でも、開設当初は特殊学級・特別支援学級の教員が指導者として配置されて始まった歴史を持つていま  
すが、現在は学校関係者・元教員がスタッフとして関わるケー

スは東京でも23区中半数程度となつており、各区ともスタッフの扱い手不足が学級運営の課題のひとつにあがっています。

かえで学級の場合も、現在は区立の特別支援学級の教員は直接スタッフとして入つていただいているません。

その代わり、長くかえで学級で助手として参加くださつている方や各分野を専門に持つてい

らつしやる方に専任講師として携わっていただいたり、地域の方へ向けての公募によりスタッフの確保が続いています。また、大学の学生にスタッフとして活躍いただいてきた歴史もあります。古くは東洋大学、文京女子大学・短期大学などの学生サークルの皆さんのが活動に参加してくださいました。近年では大妻女子大学の学生がボランティア実習生として参加くださり、実習終了後も助手として関わってくださる方も増えてきました。

プログラムのひとつ部活動を担当してくださる科目講師には、各専門分野をお持ちの方に長く指導をいただいています。現在は、手芸・華道・運動を部活動として実施し、運動部では区のスポーツ推進委員にご担当いただいています。

その他、全体学習やオーパン学級など、その都度たくさんの方々の協力をいただいてきました。学校・地域を含め、沢山の

【スタッフ】の資質向上に「つて】

方の支えがあつて、かえで学級は運営できています。

やはり学級の活動をもつと多くの方に知つていただき、少しでも関わっていただくことが大切だと感じています。

【スタッフの資質向上について】

ろから寄り添い、見守り、指導をしてきたわけではありません。また教育という面では専門の養成課程や現場を経験してきた方だけではありませんので、障害についての基礎知識とその対応、学習支援の観点からの配慮等、スタッフ側が共有し、学ぶべき事柄もたくさんあります。

そのため、限られた時間の中ではありますが各回の学級実施前後にスタッフミーティングを行い、共有と振り返りで今後の

宿泊学習・合宿・バスハイク・校外学習など、外にでかけ  
る行事も団体行動の中での自立を目指し、年間の学習プログラ

普段のグループ学習や部活動でも様々な学びがありました。

同じ献立を2回続けて作っています。また、なるべく自分で食べるものは最初から最後の工程まで一人で調理が完結できるこ

新聞やテレビの話題についての学習にはじまり、日曜大工、ペン習字、ギターなどもありました。また設立当初からグループでの話し合い学習はメインとなる活動として今も続いています。

特に宿泊学習の中でグループごとに近況の報告や職場・家庭でのできごと、生活で困っている

過去の学習記録を読み返してみると、映画観賞会やレストラン学習という活動もありました。今後も、学級生自身のチャレンジしたい気持ちを汲み取つて、当事者として積極的に学び合えるプログラムの機会をスタッフで整えていきたいと考えています。

学級の課題

かえで学級開設当時から現在に至るまでの活動を足早に振り返りましたが、50年経った今、かえで学級もさまざまな課題がみられるようになっています。

方の支えがあつて、かえで学級  
は運営できています。

この流れを続けていくには、やはり学級の活動をもつと多くの方に知つていただき、少しでも関わっていただくことが大切だと感じています。

【スタッフの資質向上について】

ろから寄り添い、見守り、指導をしてきたわけではありません。また教育という面では専門の養成課程や現場を経験してきた方だけではありませんので、障害についての基礎知識とその対応、学習支援の観点からの配慮等、スタッフ側が共有し、学ぶべき事柄もたくさんあります。

そのため、限られた時間の中ではありますが各回の学級実施前後にスタッフミーティングを行い、共有と振り返りで今後の

-10 社会教育—116

対応等を確認しているほか、年に1回、講師を招いて専門的な事例等を学ぶスタッフ研修を実施して資質の向上を図っています。

スタッフの人材確保と資質向上ができた、よりよい学級運営を安定的に続けられることが近年の最も大きな課題となっています。

#### 【学級生の高齢化について】

スタッフの課題と同時に、学級生の高齢化も学級運営の課題となっています。他地域の学級でもやはり同じ課題としてあがつており、年齢により学級を卒業する制度を設けたところも見られてきました。かえで学級では年齢による卒業については現在設けていませんが、学級参加条件の「会場まで一人で通える」ことが難しくなってきた学級生について、スタッフ会議で対応を話し合うことも増えてきました。また、高齢化とともに併発する障害の重度

ことでもできたかと思います。

#### これからの学級

特殊学級の卒業生たちから始まつたかえで学級も、50年の時を経て世の中の動きと合わせて変化を持つてきました。2014年（平成26年）に日本が批准した障害者権利条約を契機に、国の障害者の生涯学習政策も再度注目を集め、今まで教育と福祉の狭間にあつた「障害をもつ方の学校卒業後の学びの機会」は行政・民間ともにまだわざかですが選択肢が増えてきています。

2018年（平成30年）からは文部科学省の「学校卒業後ににおける障害者の学びの支援に関する実践研究」事業、2019年（平成31年・令和元年）から「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」事業などで全国の都道府県・市区町村の教育委員会、NPO法人、大学、保護者の会などの活動が実践事例として報告され、クローズアップさ

化や身体的な困難によって退級する学級生も年々増えています。

本稿のテーマ「だれでも」の部分の難しい点もあります。

かえで学級にしても、受け入

れられるのは、軽度・中度の知的障害を持つている方のみの一

学級と限られているのが現実です。該当しない障害を持つてい

る方の学習の場、また学級を退級した後の場についても、手が

届いていないことを認識した上

で、より適切かつ柔軟に考慮しなければならない所ではあります。同時に能力に合わせ、当事

者が選択できる活動環境の整備もより必要となっているのが現

状です。支援者の扱い手確保とともに運営維持と多様化の現実が大きな壁となっています。

かえで学級でも学級生本人が希望する限り、できるだけ参加

ですが、本人にとって安全であり良い選択ができること、また

学級全体の運営のバランスを取ることが課題となっています。

れてきています。その活動事例の中には、かえで学級と同じように始まつた青年学級、またそこから派生した自主グループ活動などが含まれています。

半世紀前に当事者たちの声から生まれ、続いてきた活動が今また注目を集め、現在の当事者の学びの機会につながっていることは大変喜ばしいことであり、その時々の学級生やスタッフ等、先人が切り開いた末の大きな成果でもあります。

先に申し上げた通り、かえで学級も現在多くの課題を持ちながら運営をしています。その課題を解決しつつ、よりよい学びの場にしていくことが、今いる私たちの先人に対する責任でもありますし、将来を受け継ぐあらゆる人々への指標になることだと感じています。

#### 今、私たちにできること

本稿冒頭に申し上げた、今、私たちにできることを考えると、

#### 【コロナ禍における対応】

かえで学級も今般の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、コロナの状況下での安全な学級運営です。

かえで学級も令和2年1月より令和3年10月までの間、学級が休止となりました。この間、緊急事態宣言の発令や自粛要請期間など、国・都の動向を踏まえ、感染状況を

令和3年度11月の再開までにみながら休止期間・再開の日処理についてスタッフ間で協議を進めました。

令和3年度11月の再開までにまでは、学級生・保護者・スタッフへのアンケート等で意見や希望を伺い、また23区の他区学級事務局との情報交換などをを行い参

考にしてきました。

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

コロナ感染対策や学級の運用方法の検討を重ね、運営のガイドラインの作成や、班体制・スタッフ体制の再調整などを準備し

に専任講師との打ち合わせ会で

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

コロナ感染対策や学級の運用方法の検討を重ね、運営のガイド

ラインの作成や、班体制・スタッフ体制の再調整などを準備し

に専任講師との打ち合わせ会で

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

コロナ感染対策や学級の運用方法の検討を重ね、運営のガイド

ラインの作成や、班体制・スタッフ体制の再調整などを準備し

に専任講師との打ち合わせ会で

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

コロナ感染対策や学級の運用方法の検討を重ね、運営のガイド

ラインの作成や、班体制・スタッフ体制の再調整などを準備し

に専任講師との打ち合わせ会で

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

コロナ感染対策や学級の運用方法の検討を重ね、運営のガイド

ラインの作成や、班体制・スタッフ体制の再調整などを準備し

に専任講師との打ち合わせ会で

再開にあたっては、より慎重に専任講師との打ち合わせ会で

ていきました。

参考せずにできる活動として、紙媒体のかえで通信で学級生・

スタッフの近況報告を行ったり、

インでの活動実施も検討しまし

た。

ただ、この大変な状況の中、

スタッフ間で課題の共有ができる

機会を失うことのないよう考

えていかなければなりません。

## ケースで学ぶ出前講座全12講

編／岡本包治 社会教育編集部

1997年7月10日発行 A5判 120頁

定価1100円（本体1000円+税）

送料／310円

ご注文は書店・（一財）日本青年館

TEL 03（6452）9021

FAX 03（6452）9026